

無垢著「バイデン氏が変わる世界」大機小機、日本経済新聞 2020年12月25日朝刊を読む

## バイデン氏が変わる世界

<はじめに>

バイデン米大統領の登場はコロナ禍の世界をどう変えるか。トランプ大統領が地球上に残した負の遺産をどう克服するかが問われる

1. 第1に、**地球環境危機の打開**である。
  - (1)パリ協定への復帰で世界はようやく温暖化防止で足並みをそろえる。
  - (2)バイデン次期政権はケリー元国務長官を先頭に環境シフトを敷いた。
  - (3)脱炭素はエネルギー転換を促し、ガソリン車から電動車への産業革命を導く。
  
2. 第2に、「**核兵器なき世界**」に踏み出す。
  - (1)ロシアとの新戦略兵器削減条約(新 START)を延長する。
  - (2)イラン核合意に復帰し中東の危機を防ぐ。
  - (3)失効した中距離核戦力(INF)廃棄条約を中国も入れて再構築する。
  - (4)オバマ氏の提唱を実践する責務を担う。
  
3. 第3に、「**ソーシャル・キャピタリズム**」(社会的資本主義)の潮流に乗る。
  - (1)拡大する格差を是正するには、欧州大陸発の経済思想に学ぶことだ。
  - (2)コロナ危機下で膨張する巨大 IT(情報技術)企業に対して、独禁政策を強化し、デジタル税を課す。
  - (3)国際連携の先頭に立つべきは独占化を放置してきた米国である。
  - (4)民主党内の急進派に配慮するまでもなく、公的医療保険制度の創設は、社会主義ではなく民主世界の常識である。
  
4. 第4に、**米欧同盟**をはじめ**国際協調の修復**である。
  - (1)世界保健機関(WHO)に復帰。
  - (2)世界貿易機関(WTO)を立て直す。
  - (3)北大西洋条約機構(NATO)内のあつれきを回避。
  - (4)欧州連合(EU)との連携を再確認する。
  
5. (1)バイデン政権でも変わらないのは、米中の覇権争いだらう。
  - (2)とりわけ米欧連携を背景に、人権問題で対中姿勢を強化することになる。

6. (1)米中のはざまで日本は苦慮しそうだが、アジア太平洋融合に指導力を発揮する好機でもある。
- (2)環太平洋経済連携協定(TPP)と東アジア包括的経済連携(RCEP)を結合し、このスーパーFTA(自由貿易協定)に米国を主役として迎えるのである。
7. (1)コロナ危機で世界は閉ざされている。
- (2)幸いバイデン氏には、メルケル独首相のような科学的精神と人道主義が備わっている。
- (3)だから結束への呼びかけに説得力がある。
- (4)強権政治家やポピュリスト(大衆迎合主義者)が幅を利かす時代は終わった。

<おわりに>

バイデン大統領の登場は、混迷する世界へのひとつのクリスマス・プレゼントである。

<コメント>

バイデン大統領の登場が混迷する世界への「クリスマス・プレゼント」になるか否かは、米国だけでなく日本をはじめ価値観を共有する世界各国の人々が、どのように行動をともにするかにかかっている。世界に関わることで政治を「人ごと」にしないことの大切さが、今ほど感じられるときはない。

2020年12月24日(金)